



ナーパイで津波よけの祈りをささげる女性たち
—25日午前、宮古島市城辺

読ん
て
る
へ
NIE

【宮古島】宮古島市城辺で25日、津波よけと五穀豊穡を願う伝統祭祀「ナーパイ」が行われ、城辺の砂川や友利集落などから住民が参加した。

集まった女性たちは、砂川の上比屋山の籠屋で神歌を歌い、手を合わせて祈った後、1列になって移動。定められた各所で、根を強く張るダティフ（ダンチク）の棒を立てて、そこよりも上に津波が上がらないように祈りをささげた。また、海の近くではクイチャーを舞った。男性陣は、上比屋山に残り、航海安全の意味も込めて船こぎの模倣儀礼を

津波よけで祈り

宮古島の祭祀「ナーパイ」

ナーパイは「縄張り」を意味し、毎年旧暦3月の最初の酉の日に行われる。起源ははっきりしていないが、1748年の「旧記」にもナーパイと思われる祭祀について記述があり、1771年の明和の大津波より前からあったとされている。かつては宮古島南岸に位置する上野新里や上野宮国の住民も参加していた。砂川自治会の砂川正則会長は「何百年前から続いている大きな行事。必要性をみんなに分からせて、後世にも伝えていきたい」と話した。